

「上」 芹沢銈介作『かまぼのひと』(一九四三)
「下」 川端康成著『雪国』(一九三七)、
H・バイコフ著『我等の友達』(一九四三)
ともに芹沢銈介装幀



絵本と装幀

芹沢銈介の本の仕事



2025年
7/1(火) ▶ 9/23(火・祝)

静岡市立 芹沢銈介美術館
静岡市駿河区登呂五丁目 10-5 (登呂公園内)
TEL ▶ 054-282-5522 HP ▶ www.seribi.jp



芹沢銈介『わそめ系かたり』(1936)



芹沢銈介『沖縄風物』(1948)



芹沢銈介『型そめうちわ絵帖』(1971)

本。それは芹沢のもうひとつのフィールド。



式場隆三郎著『ファン・ホッホの生涯と精神病 上』(特製、並製/1932) など
(いずれも芹沢銈介装幀)



『工芸』創刊号 (1931)
芹沢銈介装幀



竹添履信著
『歌集 晴天』(1934)
芹沢銈介装幀



鹿間時夫著
『こけし・人・風土』(普及版/1954)
芹沢銈介装幀



山崎豊子著
『ぼんち』(1960)
芹沢銈介装幀



武田泰淳著
『十三妹』(1966)
芹沢銈介装幀



安部栄四郎著
『和紙三昧』(特製/1972)
芹沢銈介装幀

染色家として知られる芹沢銈介ですが、絵本や装幀（ブックデザイン）など、本に関する膨大な仕事も残っています。絵本作家としては、『絵本どんきぼうて』や『沖縄風物』など、50冊以上にのぼる絵本を残しました。1ページ1ページ、型染や合羽刷などの技法によって表現したもので、表紙や製本にも徹底的にこだわった手仕事の絵本です。また優れた装幀家としても知られ、型染や肉筆などを駆使して、川端康成著『雪国』や獅子文六著『可否道』をはじめとする、単行本や雑誌など500冊以上をデザインしました。加えて数多くの挿絵や小間絵（カット）も手がけています。この展覧会では、絵本と装幀本150点を中心に展示し、芹沢が活躍したもうひとつのフィールド、本の仕事をご覧ください。



及川全三著『和染和紙』(1948) の小間絵

関連イベント

ギャラリートーク

当館学芸員が展示の見どころを解説します。

〈日時〉 8月8日(金) 15時30分～(約50分)

〈会場〉 芹沢銈介美術館 展示室 ※当日の観覧券が必要です

●その他のイベントは、ホームページやX (@seribi_shizuoka) をご覧ください。

【開館時間】9:00～16:30

【休館日】毎週月曜日(7/21、8/11、9/15は開館)、7/22、8/12、9/16

【観覧料】一般420円/高校生・大学生260円/小学生・中学生100円/未就学児無料

(団体割引は30名以上でご利用いただけます)

※静岡市内在住の70歳以上の方・小中学生(通学含む)無料

※障がい者手帳等の提示により本人及び同伴者1名無料

【交通】

＜バス＞静岡駅南口22番バスのりばから

「登呂遺跡」行き乗車、約10分終下車徒歩3分

＜タクシー＞静岡駅南口から登呂公園へ約10分

＜東名高速＞静岡 ICまたは日本平久能山スマートICより約10分

＜駐車場＞登呂公園南側に有料駐車場があります(400円/1日)

静岡市立 芹沢銈介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目10-5(登呂公園内)

TEL ▶ 054-282-5522 HP ▶ www.seribi.jp